



西宇和みかん支援隊を核とした 新たな担い手育成システムの確立

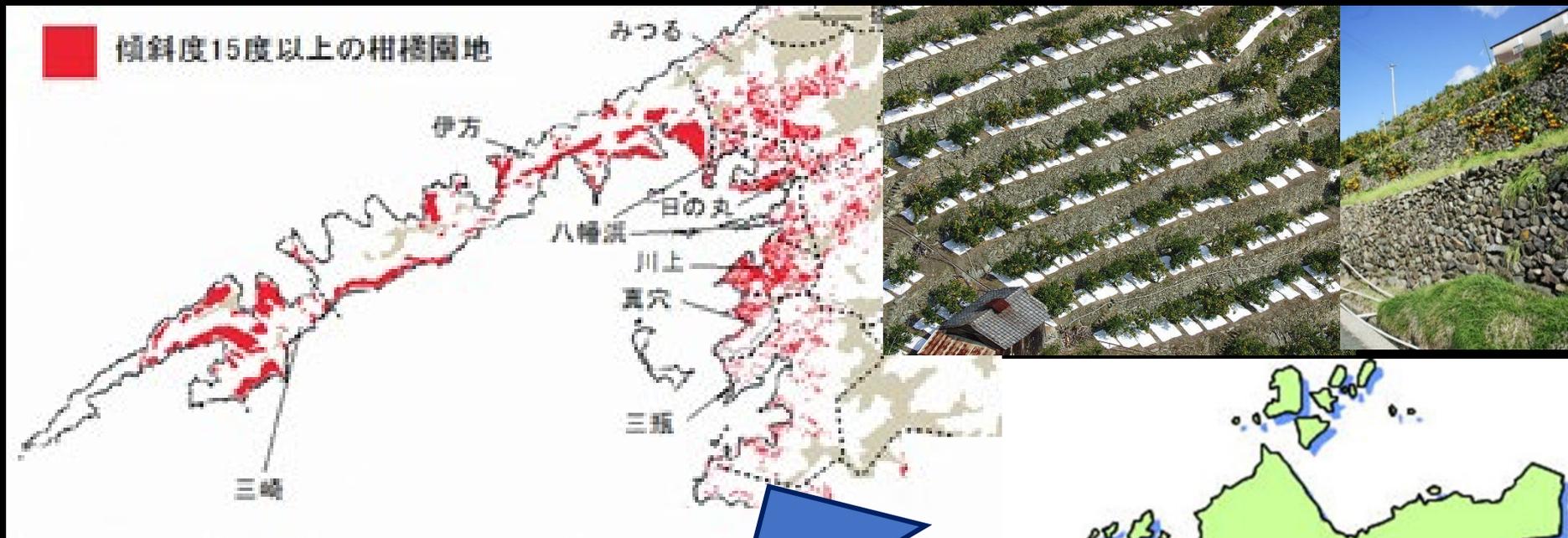


マンダリン(宿泊施設)



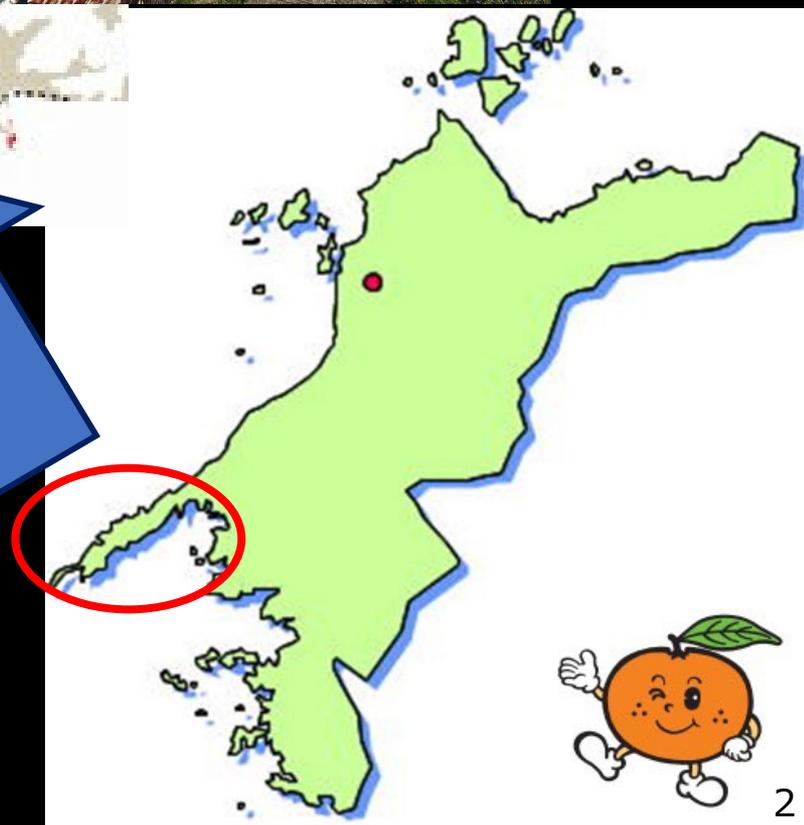
西宇和農業協同組合 営農経済部
緒方 謙一

1. 産地の現状 — 管内園地の状況



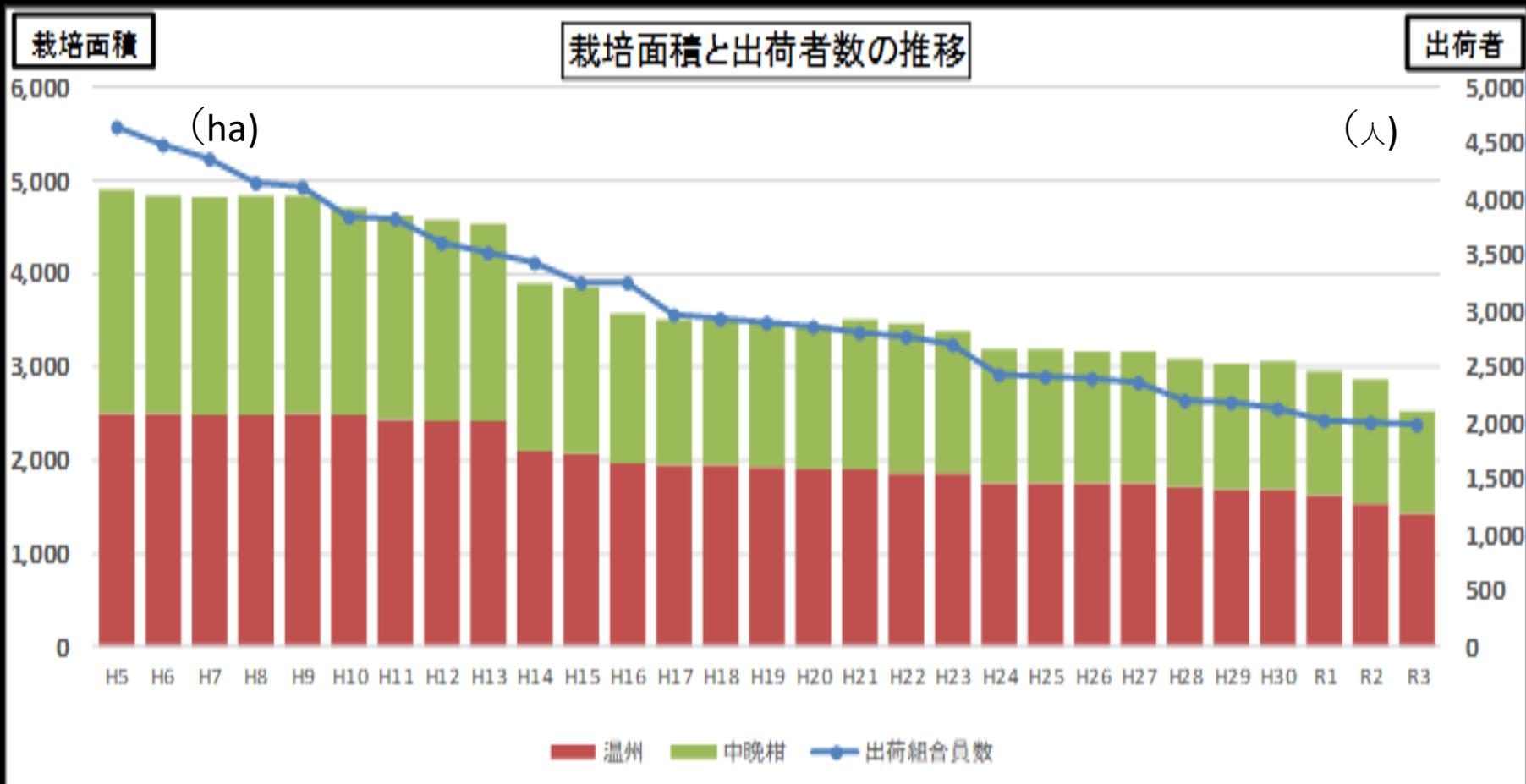
- 四国の西南端
- リアス式海岸沿い
- 急傾斜地に園地が展開
15度以上の急傾斜園地71%
- 結晶片岩を母岩とする壤土・埴壤土
- 平均気温17.1℃
降水量 1,637mm

(八幡浜消防署調 最近5年間)

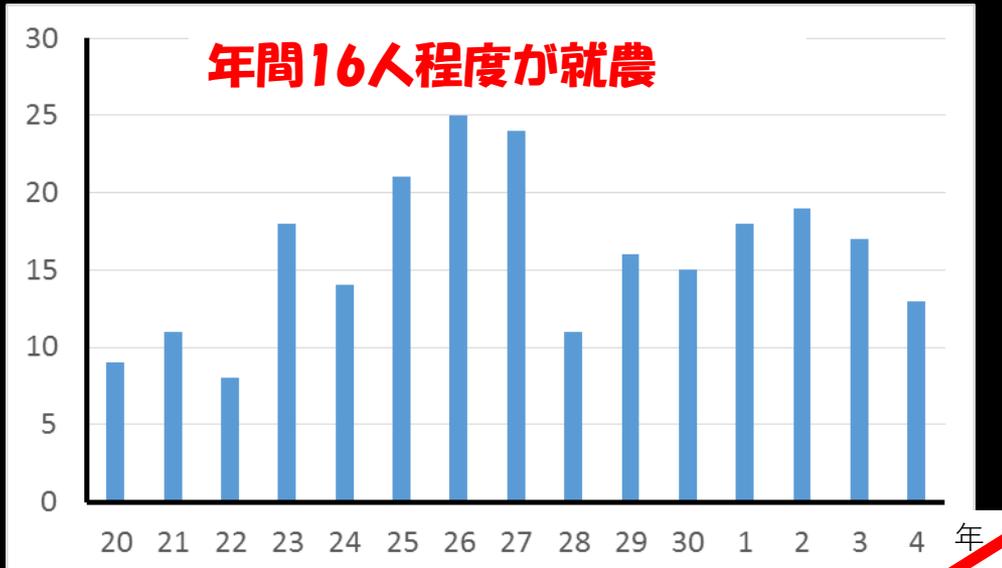


■ 高齢化による出荷者の減少・栽培面積の減少

令和5年度の出荷者数 **1,854名(H5対比 40%)**
 温州みかんの栽培面積 **1,430ha(同 57%)**
 中晩柑の栽培面積 **1,088ha(同 45%)**



新規就農者の推移と農家戸数の減少



管内の新規就農者の推移(人)

みかん価格安定・
国の就農支援策や研修
制度の充実等

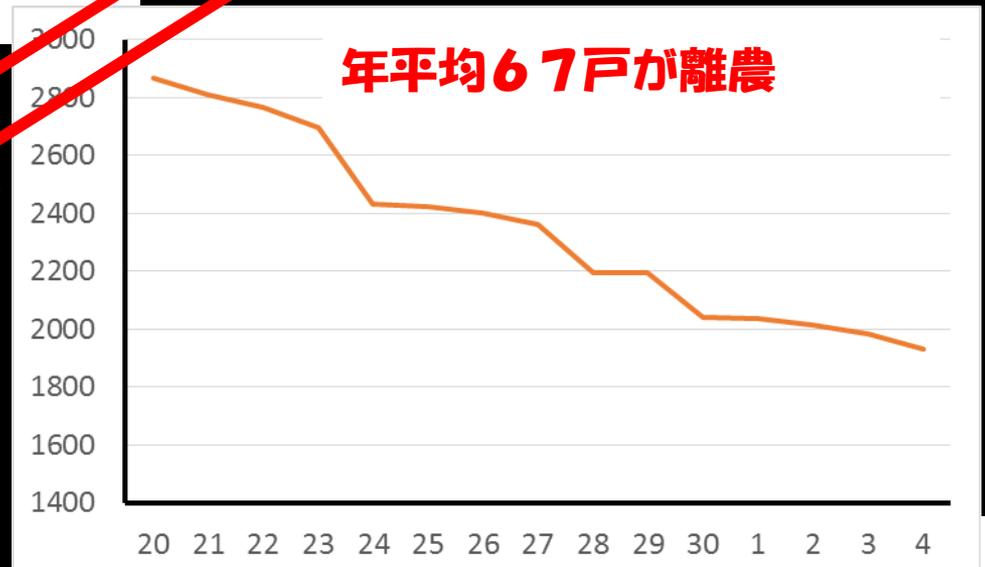


年間16人程度が就農

厳しい農作業環境・
高齢化・担い手不足



年平均67戸が離農



J Aにしうわ共選出荷農家戸数の推移(戸)



■ 家族経営、Iターン就農

家族経営 3ha、100t前後まで

① 親元就農

- ・ 2～3ha、100t前後まで

- 家族経営が中心
- 収穫繁忙期に臨時雇用利用
- 栽培技術は親やJA職員から習得
- 機械・倉庫等は既存のものを利用



② Iターン就農(県内・管外、県外)

- ・ 1～2haから開始
- ・ アルバイト-経験者が多い
- ・ 体験・収穫バイト ⇒ 研修 ⇒ 就農

通常就農

- 栽培技術は、担い手支援チームの農家及びJA職員から習得
- 機械・倉庫等は担い手チームで用意・斡旋

第3者継承枠就農

- 栽培技術は、継承予定農家及びJA職員から習得
- 機械・倉庫等は継承農家から貸借 ⇒ いずれ買取

西宇和みかん支援隊・担い手支援チーム

雇用促進協議会
9ヶ所
農繁期の労力確保

県外アルバイト・
収穫労力の確保

9箇所設置。運営

お仕事ナビでの求人
地域説明会
宿泊調整：マンダリン利用

県内：愛媛お
手伝いプロジェクト

担い手支援チーム 8ヶ所+準備中3ヶ所
担い手の確保・育成・定着

担い手の確保

新農業人フェア
(東京、大阪、松山)
就農相談
農業体験・収穫バイトの案内

研修希望者

体験助成金

担い手の育成と定着

【準備型】1~2年

A 営農指導
B 作業助成金
C 農地・倉庫の斡旋

A 農作業
(営農研修)

研修生

助成金 移住環境支援

【開始型】3年

新たな産地の
担い手として
活躍

新規就農者

西宇和みかん支援隊 (H26~)

各機関(愛媛県 八幡浜市 伊方町 西予市三瓶町) JA西宇和

2. 西字和みかん支援隊の活動 ■ 担い手支援チーム体制

受入：担い手支援チーム(8ヶ所+準備中3ヶ所)

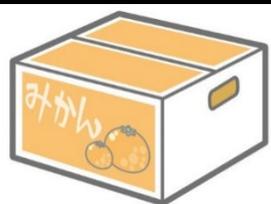
共選役員等・地元農家

毎水曜日・研修園の研修(技術・知識習得)
チーム構成員農家で作業従事

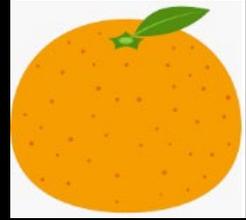
指導・相談(生活費支援：助成金)
園地・倉庫等の情報収集
地域との信頼関係構築
受入側の意識啓蒙

西字和みかん支援隊(JA・県・市町)

- 指導・相談、次世代人材育成投資事業(準備型・開始型)の申請
- 市町単独の就農支援事業、JAの支援事業(研修期間中・就農時の生活面をバックアップ)



■ 就農までの主な特徴



西宇和みかん支援隊による就農までの活動の特徴

① 体験重視の研修システム

- ・ 農家体験での**お試し期間**を十分取り、地域・本人が納得した上で研修に入る

② 農家との絆作り(支援チーム中心)

- ・ **農家による支援チーム**を立ち上げ、農家での研修を重視 ⇒ スムーズな就農・地域とのコミュニケーション
- ・ 就農までに農地・倉庫の準備

③ 農地を中間保有・研修に係る施設・装備がない

- ・ いずれは就農予定者のものとなる**農地を中間保有**し、研修中は栽培管理を行い、就農と同時に引き渡す

④ 研修期間(1~2年間)中は、最低限の生活費を支援

- ・ 研修中は、国・市町・JA+農家労賃により、月21万円以上の**生活費を支援**

■ 就農までのステップに応じた支援

ステップ
1

● 情報提供・相談・就農フェア



ステップ
2

● 短期研修(1～30日)体験・収穫アルバイト

ステップ
3

● 実践研修 (1～2年)

ステップ
4

● 就農

■ 担い手確保のステップ

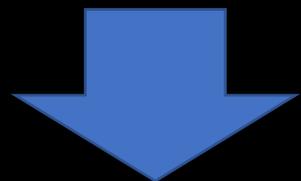
ステップ1

ステップ2

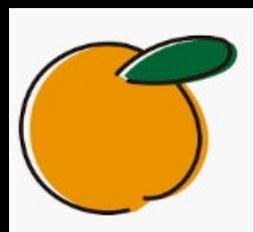
ステップ3

ステップ4

○西宇和みかん支援隊で
各種就農フェアに出展
(東京、大阪、県内、
マイナビ農林水産FEST
新・農業人フェア等)



★補助金利用の場合は
研修1年以上必要
42歳が限界



■ 担い手受入れ環境整備 – 宿泊施設:マンダリンの整備

■改修内容

◆ (平成27~28年度) 1階・2階の改修 約1,460㎡

▽客室/4人×16部屋、2人×2部屋・和室20人 合計88人

▽その他/管理人室、厨房、食堂・娯楽室、浴室、洗面室、洗濯室、トイレ

H27年11月12日
オープン



客室
Wi-Fiを整備



食堂・娯楽室
自炊用設備を設置



浴室
大浴場ではなく個室

◆ (令和5年度) 客室の個室化を改修



■ お試し農作業体験

ステップ1

ステップ2

ステップ3

ステップ4



体験事例① A氏(40)+妻(35)

- 移住フェア参加。R4.10月、R5.7月にお試し体験
- R4.11~12収穫アバ`イ-経験
- 東京都在住。一般企業勤務。
- M地区で研修予定
- 宿泊はマンダリン利用

体験事例② B氏(38)

- 小学時代に県内在住経験。就農相談会参加。R5.6月の1ヶ月体験
- R5.11~12月収穫アバ`イ-経験
- 北海道在住。一般企業勤務。
- I地区で研修
- 宿泊はマンダリン利用

■ 研修制度の実際：現研修生の研修状況

ステップ1

ステップ2

ステップ3

ステップ4



研修園は約 1.6 ha

- 研修生の内、2名は第三者継承で就農予定
- 9名が研修待機中
- 担い手支援チームで倉庫、農地の目途がついた時点で研修スタート予定。倉庫の目途がついた人は別枠

← 現研修生 8名

1年目 3人

2年目 5人

歴代研修生・研修のきっかけ

① アルバイト(収穫) : 15名

② 農作業バイト : 9名

③ 農業体験 : 9名

④ 管内に地縁有 : 7名

★ 重複有

研修園地の除草剤散布



■ 研修制度：生活資金・移住環境の整備



主な特徴

- ① ★研修期間中の最低限の生活費を支援
 - ・市町、JAからの助成金 3万円/月 ★
 - ・国の次世代・準備型150万円 ★
 - ・農家から労賃

★：ただし支給要件有

合計 21万円/月以上
- ② ★宿泊施設マンダリンの利用
 - ・体験者には無料
 - ・研修生は15,000円(税抜)/月
- ③独自の研修
 - ・月～土曜日(水除く)は農家研修
担い手支援Gの農家へ
 - ・研修園にて毎週水曜日集合研修
 - ・みかんの年間の栽培管理
 - ・青色申告・簿記・労務管理
 - ・機械の安全使用 など
- ④就農準備
 - ・担い手支援チームが農地・倉庫・農業機械等の斡旋

■ 就農後の状況

ステップ¹

ステップ²

ステップ³

ステップ⁴



- ① 就農事例 A氏(35)+妻(34) M地区
- ・ 東京都出身、体験、JA研修生:H31～R3
 - ・ 青年等就農計画 R3年～
 - ・ 早生、南柑20号中心 栽培面積計130a
 - ・ B農家から経営移譲 貸借。
 - ・ 全園地刃^oリクターの導入
 - ・ 高品質栽培を実践中

■ 就農前後の問題点

① 優良農地が手に入らない

⇒ 条件の悪い園地から出てくる。研修生間で差が発生

② 倉庫の空きがなかなか出てこない

⇒ 農家の貸し倉庫＝駐車用・物置用として利用中
農地・住居と距離が離れるケース

③ 移住のタイミング

⇒ Iターン就農者と受入れ側農家との意識のズレ
地域の役害・飲み会によるストレス。

⇒ 就農後に伴走支援が必要!

まずは地域の農業を担う。次に地域を担う

田舎暮らしの7か条(和歌山県かつらぎ町天野地区)

①現金は要る、②プライバシーはないと思え、③農業で飯は食えないと思え、④参加を求められる地域行事の多さを覚悟せよ、⑤運転免許は必需だ、⑥自分の今までの価値観は適用しないと思え、⑦自然は時として大きな脅威になる

今後の課題

- ① **受入れ環境の整備**： ・ 特に倉庫の確保
- ② **受入れ人数が支援チーム内で差がある**
農業大生校生の受入れ、年齢条件の検討
- ③ **農業経営事業＝研修園の収支**： どうしても赤字となる
補助金活用・JAの内部で留保。長い目で考える
- ④ **就農後～定着～移住 までの伴走支援**
地域農家とのコミュニケーション作り
- ⑤ **1ターン就農** ⇒ 第三者継承へのコーディネート活動が必要